2024 春号

ひろまちだより

Hiromachi Ryokuchi Park in City of Kamakura

contents

特集	ドジョウのなかま
連載	樹木医日誌
催事	春のイベント etc
ほか	春の広町へ

①幼虫がスイバやギシギシなどの葉を食べて育つベニシジミ。3月くらいに現れる春型と比て、夏型は黒っぽい。②誕生したてで、ぽてっと横になっているアズマヒキガエルのおたまじゃくし。③葉と花が同時に出るヤマザクラ。花が咲く頃の葉は赤茶っぽい色をしている。④日当たりのよいところでよくみられるカラスノエンドウ。葉の先のまきひげで、ほかのものにまきついて体を支える。

新しい春はもうすぐそこだね

口ひげが5対(10本)(*)のドジョウ。
ホンドジョウとよばれることもある。
*1対はあごの下にある。

ひろまちだより　2024 春号（2024年3月発行）
発行　鎌倉広町パートナーズ
鎌倉広町緑地管理事務所
鎌倉市津 1133　TEL：0467-32-5112
http://www.kamakurahiromachi.com/

デザイン・編集　向田智也　　樹木医日誌：田中浩

ずんぐりとした体型のホトケドジョウ。
（ホン）ドジョウよりも体が短く、太い。

＊ホトケドジョウは絶滅危惧種1B類の生き物で採取は禁止です。広町でも保護活動を行っています。

ウッディぴろしの樹木医日誌

Vol.20
アオキ
（ガリア科）

「広町緑地で最も数が多い樹木は？」と質問されれば少し迷いますが、おそらくアオキでしょうと答えます。
御所谷入口から歩くと、ウルシ林を抜けるあたりで目線の高さに見える常緑広葉樹はほとんどがアオキで、他の樹木が育たない日陰でもよく育ち群落を作っています。
理由は一目瞭然、葉だけでなく枝や幹までも緑色(アオキの名前の由来)で、光合成能力が高いからです。
春に咲く花も意外と美しい。
5年間続けた樹木医日誌は今回で最終回。トリに何をテーマにしよう？と考えた時、群落をこつこつ広げ、目立ちはしないが実は広町緑地の主役の木とも言えるアオキを取り上げたくなったのです。

躍動感を感じさせる早春のつぼみ

雌雄異株で雌花にはおしべがない

都市部ではなかなかみられなくなったドジョウ

Loaches are not so common in cities anymore.

田んぼや小川の泥底や砂底を好んでくらすドジョウ。
暮らしの中心に水田があった時代には、いくらでも「すくえる」生き物だったようですが、現代の都市部で野生化のドジョウを見つけるのは簡単ではありません。
水温が高くなる夏の田んぼや湿地で繁殖し、水温が下がると、砂泥の中で冬眠を始め、条件がよいと1年ほどで成熟します。

冬は泥にもぐってじっとしている

広町緑地の環境を象徴するホトケドジョウ

複雑に谷戸が入り組む鎌倉らしい環境が残る広町緑地には、水の流れが弱く、隠れ家となる水草が多い砂底や泥底を好むホトケドジョウが生息しています。
「ホトケ」という特徴的な名前の由来には諸説ありますが、ほかのドジョウに比べて、丸っこい頭部が仏さまのようだからとも。
同じく広町緑地に生息する（ホン）ドジョウと比べると体長は 1/3 ほど。真上から見ると、ひょろりと細長い（ホン）ドジョウに対して、ホトケドジョウはずんぐりとした三角形っぽい体つきをしています。

ホトケドジョウの
口ヒゲは4対（8本）

イベント情報 4月以降のイベントは日付が未確定なため、詳細はホームページのイベント予定でご確認ください。
4月の週末は、里山さんぽ「春の植物観察会」、子ども向け「広町ハイキング」、里山さんぽ「大桐・藤の観賞会」、
5月の週末は、「春の広町で野草料理を楽しむ会」（要予約）、「植樹祭」（要予約）、「豆腐作り教室」（要予約）、
7月の週末は、「田植え祭」が予定されています。

＊上記の予定は変更されることがありますことをご了承ください。

春の植物観察会

管理事務所よりお知らせ 広町は、大島桜が咲き、ウグイスが鳴き、虫たちが帰って来て、新緑鮮やかな春が始まっています。散歩には最高の季節。広町にあふれる「はじまりの雰囲気」をぜひ楽しみご来園ください。（今号をもってこの形のひろまちだよりはひと区切り。次号からリニューアルしてお届けします！）